慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	近代日本の仏教者における中国体験・インド体験
Sub Title	Indian and Chinese Experience of Modern Japanese Buddhists
Author	小川原, 正道(OGAWARA, MASAMICHI) 陳, 継東(CHEN, JIDONG) RANJANA, MUKHOPADHYAYA(YAMAGUCHI, TERUOMI) 山口, 輝臣(KOYAMA, SATOKO) 小山, 聡子(SHIOSE, TAKAYUKI) 塩瀬, 隆之(KIRIHARA, KENSHIN) 桐原, 健真(NAKAJIMA, TAKESHI) 中島, 岳志(TAKAYAMA, HIDETSUGU) 高山, 秀嗣(MACHI, SENJURO) 町, 泉寿郎(KAWABE, YUTAI) 川邉, 雄大
Publisher	
Publication year	2009
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2008.)
JaLC DOI	
Abstract	明治から昭和戦前期にかけての近代日本を代表する仏教者たちが、仏教の故郷である中国やインドをいかに「体験」し、それがその人物の思想形成や我が国の思想史上どのような意味をもったのかについて共同研究を行った。研究は、インド、中国など国内外での資料調査を踏まえて、個々の仏教者の事例研究と比較研究を中心に進められ、その成果は公開シンポジウムおよび論文集の刊行等によって公にした。
Notes	研究種目：基盤研究(C) 研究期間：2006～2008 課題番号：18520483 研究分野：人文学 科研費の分科・細目：哲学・思想史
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_18520483seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

様式 C -19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２１年　６月　４日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2008
課題番号：18520483
研究課題名（和文）　近代日本の仏教者における中国体験・インド体験

研究課題名（英文）　Indian and Chinese Experience of Modern Japanese Buddhists

研究代表者
小川原　正道（OGAWARA　MASAMICHI）
慶應義塾大学・法学部・准教授
研究者番号：40352637

研究成果の概要：明治から昭和戦前期にかけての近代日本を代表する仏教者たちが、仏教の故郷である中国やインドをいかに「体験」し、それがその人物の思想形成や我が国の思想史上どのような意味をもったのかについて共同研究を行った。研究は、インド、中国など国内外での資料調査を踏まえて、個々の仏教者の事例研究と比較研究を中心に進められ、その成果は公開シンポジウムおよび論文集の刊行等によって公にした。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2006 年度	700,000	0	700,000
2007 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	750,000	3,950,000

研究分野：　人文学
科研費の分科・細目：哲学・思想史
キーワード：国際研究者交流、中国：インド、思想史、文化交流史、日本政治史、日本政治思想史、日本宗教行政史

１．研究開始当初の背景

これまで、近代日本の仏教者が中国・インドという「故郷」を体験した足跡として主に論じられてきたのは海外植民地伝道や戦争協力の側面であり、布教や探検、旅行といった多様な体験の内実と、その意義については、著名な仏教者に限っても、必ずしも十分明らかにされてこなかった。このため、日中文化交流史、宗教社会学、宗教行政史、仏教史、思想史などの研究者が集い、近代日本の仏教史上重要な足跡を残した仏教者に焦点を当て、その中国・インド体験の実態と意義を検証することを目指して、共同研究を立ち上げたものである。

２．研究の目的

本研究は、近代日本における仏教者が、仏

教の故郷である中国やインドをいかに「体験」し、それがその思想形成や行動にどう影響したのかについて、個別的・比較思想史的分析を試みるものである。

「体験」としては、これまで近代日本と仏教の関係を考える上で重視されてきた植民地伝道や戦争協力の側面にとどまらず、布教、探検、旅行、留学などの多様な側面を取り上げ、その実像を浮き彫りにした上で、相互の比較や思想史的な意義について追究する。具体的に取り上げるのは、小栗栖香頂、島地黙雷、松本白華、南条文雄、井上円了、藤井日達などの近代日本を代表する仏教者であり、彼らの思想形成過程においてインド・中国体験がもたらしたインパクトと、その思想史上の意義について検討し、比較研究にも取り組んで、多様で多面的な日・中・印間の交流の実績と可能性を、歴史的に跡付けたい。

３．研究の方法

（１）平成 18 年度

初年度にあたる平成 18 年度には、研究会での研究発表を軸として研究に取り組み、国内での関連文献を収集するほか、ホームページを開設して研究の内容・進捗状況について公にする。具体的には、研究代表者、研究分担者、研究協力者がそれぞれ対象とする仏教者に焦点を当て、その中国・インド体験の内容と意義に関する基礎的調査と問題意識の整理・調整にあたり、その成果を研究会で提示し、議論を重ねていく。

（２）平成 19 年度

前年度の成果を引き継ぎ、各研究者が対象とする仏教者に関する研究を深化させ、研究会での研究発表を目指して研究を推進する。また、国内での資料収集にあたるほか、中国およびインドにおいて実地調査を行い、資料や文献の収集にあたる。収集した文献リストはホームページ上で公開していく。

（３）平成 20 年度

最終年度となる平成 20 年度においては、研究会での発表・討議を重ねるほか、これまでの研究成果を公にする公開シンポジウムを開催する。文献収集や文献リストも一層充実させ、年度末には研究成果をまとめた論文集を刊行する。

４．研究成果

本研究の成果は、国内外での資料調査を踏まえて、本共同研究のホームページや、研究会・シンポジウムにおける研究発表、論文集の刊行などを通して公にしてきた。

研究会は、平成 18 年度は慶應義塾大学（東京）、京都大学（京都）、平成 19 年度には北海道大学（札幌）、二松学舎大学（東京）、平成 20 年度には常福寺（金沢）において開催し、研究代表者・分担者・協力者のほか、ゲスト講師を招いて研究発表や講演、討議を行った。平成 19 年には研究分担者の陳継東が中国の南京、合肥、厦門、上海を訪れ、金陵刻経処、南京大学、東南大学等での研究者からのヒアリング、李鴻章記念館等での調査、本願寺別院等の遺跡調査を行い、中国側の最新の研究状況等の情報を収集した。また、同年 12 月から翌年 1 月にかけては研究分担者のランジャナ・ムコパディヤーヤがインドを訪れ、日本山妙法寺関係者などからのヒアリングや、ガンジー記念館、ガンジー平和記念会館等で資料調査を行い、藤井日達とガンジーとの交流等について情報を収集した。最終年度の平成 20 年度には、慶應義塾大学（東京）で公開シンポジウムを開催し、研究分担者の陳、ランジャナ、中島岳志をパネリストとして、それまでの研究の成果を公にし、国内外から多くの参加者を得て、踏み込んだ議

論が展開された。

最終年度末には、それまでの研究成果をまとめた論文集『近代日本の仏教者における中国体験・インド体験』（ＤＴＰ出版、小川原正道編）を刊行し、近代日本を代表する仏教者が中国・インドをいかに体験したか、という実態を明らかにするとともに、その特徴や傾向、問題点、可能性を明示することになった。本論文集の構成は、次の通りである。

○序
「アジアを体験した仏教者たち―その思想と行動の軌跡」（小川原正道）
○第一部　論説編
「島地黙雷のインド体験」（小山聡子）
「日本仏教の再発見―小栗栖香頂の中国体験（一八七三―一八七四）」（陳継東）
「北方心泉の中国体験―書の受容を中心として」（川邉雄大）
「南条文雄におけるインド体験―その宗教的・思想的意義について」（小川原正道）
「井上円了における海外体験の意味」（高山秀嗣）
「求法の道―河口慧海と「日本仏教」」（桐原健真）
「近代仏教者としての三島海雲の技術伝承」（塩瀬隆之・高山秀嗣）
「二〇世紀初頭のインド熱―堀至徳のインド留学」（中島岳志）
「「西天開教」―藤井日達とその弟子たちのインド体験」（ランジャナ・ムコパディヤーヤ）
○第二部　シンポジウム記録等
「シンポジウム討議録」
「研究会・シンポジウム・調査実施状況」

この論文集によって示された中国・インド体験の問題性の一つとして、仏教者にみられる帝国主義的、あるいはオリエンタリズム的視線が挙げられる。中国やインド、チベットの仏教衰退・停滞という現実を直視した彼らは、日本仏教の重要性を再認識し、その拡大・発展への意欲をかき立てられていった。彼等を支えていたのは、日本が文明国として未開・蒙昧な中国やインド、チベットを開化させていく義務があるといった世界観と、日本仏教に対する大きな自信、そして西洋・キリスト教に対する危機感であった。こうした傾向は、宗教界や思想界の中枢に近づけば近づくほど強化されていく、という傾向がみられた。これは、アジア圏に対する日本の宗教者・知識人の目線を考える上で、重要な問題を提起している。同時にこの研究を通して、著名な仏教者や教団のみならず、インドで孤独な客死を遂げた堀至徳のような無名人や、仏教的精神を基礎に経済活動に従事した三島海雲のような周辺的人物にも丹念に目を配っていく必要があることが判明した。彼らには、以上のような帝国主義的視線がほとんどみられないためである。その意味で、この研究は研究参加者それぞれにとっての新たな研究の出発点となった。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計２件）

1.小川原正道、近代日本の仏教者におけるインド体験―南条文雄と高楠順次郎を中心に―、武蔵野大学仏教文化研究所研究員特別勉強会、2009 年 3 月 27 日、東京都西東京市・武蔵野大学

2.桐原健真、仏陀を背負いて西蔵へ――河口慧海と〈日本仏教〉、東北仏教史談話会、2008 年 3 月 8 日、仙台市・東北大学

〔図書〕（計１件）

1.小川原正道編、ＤＴＰ出版、近代日本の仏教者における中国体験･インド体験、2009 年、132 頁

６．研究組織
(1)研究代表者
小川原　正道（OGAWARA MASAMICHI）
慶應義塾大学・法学部・准教授
研究者番号：40352637
(2)研究分担者
陳　継東(CHEN JIDONG)
武蔵野大学・人間関係学部・准教授
研究者番号：50339537
ランジャナ　ムコパディヤーヤ
(RANJANA MUKHOPADHYAYA)
名古屋市立大学・人間文化研究科・准教授
研究者番号：10381899
山口　輝臣（YAMAGUCHI TERUOMI）
九州大学・人文科学研究院・准教授
研究者番号：20314974
小山　聡子（KOYAMA SATOKO）
二松学舎大学・文学部・講師
研究者番号：80377738
塩瀬　隆之（SHIOSE TAKAYUKI）
京都大学・総合博物館・准教授
研究者番号：90332759
桐原　健真（KIRIHARA KENSHIN）
東北大学・文学研究科・助教
研究者番号：70396414
中島　岳志（NAKAJIMA TAKESHI）
北海道大学・公共政策学連携研究部・准教授
研究者番号：40447040
高山　秀嗣（TAKAYAMA HIDETSUGU）
龍谷大学・仏教文化研究所・客員研究員
研究者番号：30445978

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
町　泉寿郎（MACHI SENJURO）
二松学舎大学・東アジア学術総合研究所・講師
研究者番号：40301733
川邉　雄大（KAWABE YUTAI）
二松学舎大学 21 世紀 COE プログラム研究員